

介護チーム 派遣活動報告

日本赤十字社介護チームは、被災地の福祉施設（特養または老健施設）で不足している介護職員の業務を補うことを目的に、施設利用者に対する日勤帯の介護業務（昼の食事介助、入浴介助など）の支援を行っており、小野田赤十字病院からは、第11班として2名の介護職員（介護福祉士）が介護支援を行いました。



活動概要

1. 実施期間 平成23年6月15日～平成23年6月21日
(活動期間 平成23年6月16日～平成23年6月20日)
2. 活動地域 岩手県上閉伊郡大槌町
3. 支援施設
 - (ア) 社会福祉法人堤福社会 特別養護老人ホーム らふたあヒルズ
 - (イ) 医療法人あかね会 介護老人保健施設 ケアプラザおおつち
4. 支援内容
 - 日勤帯の業務支援(排泄、食事、入浴等)
 - 勤務時間：らふたあヒルズ (9時～17時)
ケアプラザおおつち (9時30分～17時30分)

【らふたあヒルズ】

「らふたあヒルズ」は、海から大変近い場所にありますが、高台に建っているため、津波による被害は全く受けていませんでした。



しかし、その周りは破滅的な被害で、一帯は瓦礫の山で亡くなられた方がいる印の赤い旗がたくさん立っている悲惨な状況でした。

施設の下には仮設住宅がたくさん建っていました。



震災直後は溺れた方が多く運ばれ一時は約 200 人の避難者が収容され、野戦病院のようだったとの事ですが、支援に入らせて頂いた時は、入所者総数 55 名と定員を少し割る程度に落ち着いていた。

職員の方は家族を亡くされていたり、家を流され、避難所から 2 時間かけて通われていたり、たくさんの苦労や悲しみがありながらも、とても温かく、笑顔で接して下さり、被災された辛さを表に出されることはありませんでした。

【ケアプラザおおつち】



「ケアプラザおおつち」は、海岸から離れた山間にある施設で、津波による被害はありませんでした。

施設の職員の方の殆どが被災されながら、献身的に介護をされていました。その努力もあってか、施設内はゆったりとしており、入所者様からも「どこから来

られたの?」「ご苦労さま」「ありがとう」との声を掛けて頂きました。

大槌町は町長が津波により亡くなり、役場機能も津波で深刻な被害を受けており復旧が遅れています。両施設とも落ち着いてはいましたが、職員の心のケアも含めて、今後も継続的な支援が必要であると痛感しました。

